本調査(「中高の英語指導に関する実態調査2015」)の設計は、2014年に行った「中高生の英語学習に関する実態調査2014」と「英語教員に対する聞き取り調査」の分析より明らかになった生徒の英語学習実態や意識、教員の英語指導実態や意識に基づいて行った。ここでは、「英語教員に対する聞き取り調査」の分析結果として英語の指導に大切な５つのキーワードとその意味を紹介する。聞き取り調査は、文部科学省「新学習指導要領に対応した授業実践事例映像資料」で英語による授業実践を行っている教員６名(中学校教員３名、高校教員３名)を対象に行った。それを質的研究法であるThinking at the Edge（TAE)にて分析した結果である。

【分析で抽出された５つのキーワードとその意味】

●子どもに寄り添う

生徒の学習状況、発達や興味・関心に寄り添うことに加え、学校と日々の生活の中で起こる中高生の思春期独特の繊細な感情の揺れ、いらだち、そういうものにも深い愛情を持って寄り添っている。

●自らの成長

自らの英語力を伸ばすために自己研鑽している。また、指導や授業運営の研究・実践・振り返りを行い、その繰り返しの中で、自らの教育観や指導観も発展・進化させている。

●英語を使う経験

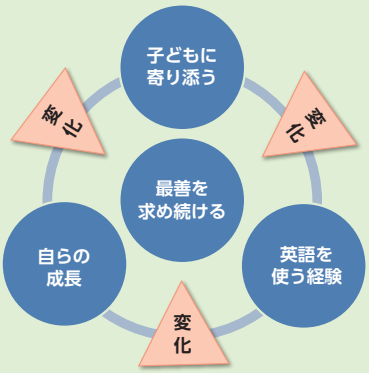
完全ではなくても伝えたいことを伝えようとした経験がある。英語を使って人とつながることのすばらしさや喜びを自ら体験したことがある。それらを生徒に伝えたい、経験してもらいたいと思っている。単に留学をしたり、海外で生活をしたりしたことがあるという意味ではない。

●最善を求め続ける

「子どもに寄り添う」こと、「自らの成長」「英語を使う経験」のすべてに常に最善を尽くし、それを続けている。１つの活動、１つの授業に最善を尽くすとともに、10年、15年後の先を見越して何をすべきかも考えている。

●変化

生徒の日々の小さな変化に心を配るとともに、日本や海外で起こっていること、教育行政の動きなどにも敏感である。いろんな学校で異なる経験をしたり、学びを求めて新しいことに挑戦をすることで、多様な価値観に触れながら、それらを寛容に受け入れ、自らも変容・成長し続けている。

【５つのキーワードの関係をイメージ化したもの】

５つのキーワードの持つ意味や重さ、相互の関係、「変化」の影響を受けたタイミングは、教員ごとに異なるが、イメージはこの１つに表すことができる。中心になるのは「最善を求め続ける」ことである。「子どもに寄り添う」「自らの成長」「英語を使う経験」のそれぞれに最善を求め続けている。「変化」の影響を受けながら、「子どもに寄り添う」「自らの成長」「英語を使う経験」のそれぞれを関連・循環させることで、自ら変容・成長し、日々の授業づくりに臨んでいる教員の姿が見える。